



虹色

＝ 発行 ＝
 秋田県生涯学習センター
 〒010-0955秋田市山王中島町1-1
 TEL :018-865-1171
 FAX :018-824-1799
 E-mail :sgcen002@mail2.pref.akita.jp
 編集：社会教育アドバイザー

社会教育は人と人との縁を育む活動

「進路選択の視野が広がりました」～児童・生徒と生涯学習センターとの出会いから



11月、生涯学習センターに小学生と高校生の訪問がありました。生活科の「すてき発見！町探検」で訪れたのは地域の小学校に通う2年生3名。所員にインタビューできたときの笑顔が印象的でした。そして、「高校生インターンシップ推進事業」にかかる職場体験で三日間を過ごした高校生が4名。地域社会で出逢う様々な人々との縁が、子どもたちの夢の実現につながっていくことを願い、お礼状に表された感想の一部を紹介します。

「あしがと」

川尻小二年 男子

☆生涯学習センターは、図書館があいていないと行きける所があつてびっくりしました。センターの入口の近くの車（注：ベロタクシー）にのせてもらつてありがとうございました。

☆ぼくがおどろいたことは、生涯学習センターを案内してくれた人が、むかし、川尻小学校の先生だったと聞いておどろきました。おみやげ（注：名刺）をもらつてうれしかったです。

「インターンシップで学んだこと」

秋田商業高校二年 女子

（前略）センターの仕事では、講演会の準備や図書整理をしたり、茨城大学の長谷川先生の講演を聞いたたりして、とても勉強になりました。

どの仕事にも当てるはまると思うのですが、状況を見て臨機応変に対応すること、「仕事は早くやることも大切だが、丁寧にすることはもっと大切」ということを学びました。自分たちで講演会を考える演習では、自分の意見をしつかり出せたので良かったです。自分の意見を出しつつ相手の意見を聞き、お互いに試行錯誤しながら作り上げていく過程を理解することができました。

私は、インターンシップのこの三日間で実際の職場の空気に触れ、改めて進路について考えさせられました。そして、進路選択の視野が広げられたように思います。

この経験を今後の学校生活に生かし、自分の将来を考えていきたいです。

「インターンシップで学んだこと」

秋田商業高校二年 女子

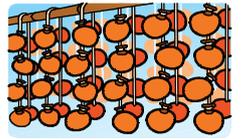
（前略）センターでは、仕事をしている人へのあいさつをはじめ、センター内にある図書館の整理、ワークショップなどを頑張りました。

中でも、センターで行われた講演会が一番印象に残りました。私は、その講演会の受付を参加もしたけれど、本当にためになることで、聞いて感動するばかりでした。子どもの成長について、社会の在り方について聞くことができましたからです。

この三日間、忙しくてとても大変だったけれど、あいさつや仕事を頑張ることによって、人々と接することの大切さや仕事における発言力を学びました。私は、普段、発言することがあまりないので、今回の実習は自分にとってとても大切なものでした。

この実習が終わった後でも、人々との接し方を大切に、日常でも積極的に発言していきたいです。

秋田ふるさと学講座～上小阿仁村キャンパス～二日間の講座から



故きを温ね新しきを知る

11月10日(土)

『上小阿仁村が誇る文化財～未来に伝えよう上小阿仁の宝』



『鎌沢堂川境石』夜、石があつちへこつちへ移動したという昔話も

午前は、村文化財保護委員長萩野芳紀氏により、教育委員会編纂の史料を元に、板碑等の有形文化財、八木沢番楽等の無形民俗文化財、七倉城址等の史跡について説明をいただきました。

午後は、村のバスに乗って現地を訪ねました。

天候にも恵まれ、自分の目で一つ一つをじっくり見て確かめ、まさに百聞は一見に如かずの移動学習となりました。

常光寺では開帳されることは滅多にないという「涅槃図」の前で和尚様から丁寧な謂われなどをお聞きでき、呈茶が殊の外美味しく感じられました。

友倉神社は歴史を感じさせる境内であり、裸参りの行事は今でも続いているそうです。真っ黒になって遠目には文字が判然としない額を一心に見上げた参加者たちでした。

上小阿仁の人々の温かいもてなしもあって、往時の人々の行いや暮らしぶりに現代と共通する人の情を感じる半日でした。また、「小沢田村鎌沢村境裁定書」の古文書について、当生涯学習センター所長金森が読み下し、参加者の理解を深めることに一役買いました。



『友倉神社祈願額』元禄時代の人も願った家内安穩息災延命

11月24日(土)

未知の人との出会いが思いがけない活動につながる

『大学にはこんな先生がいらして、このような仕事を?!』

本講座を通し、大学にあって地域支援で活躍中のお二人の先生にお会いすることができました。市町村を元気にする新たな活動が生まれることを期待した一日でした。

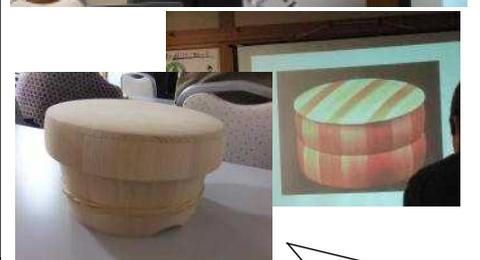
『秋田杉の活用術～伝統工芸から最新デザインまで～』

千葉県のご出身。2001年からは秋田公立美術工芸短期大学で地場産業の支援に当たっておられる五十嵐潤教授です。

秋田杉を用いた伝統工芸の現状と課題について、村長さんや教育委員会の方も参加し、一緒にお話をうかがいました。



秋田が誇る酒造りに欠かせないのが天然秋田杉。かように秋田の文化のベースには杉がある。曲げわっぱは全国各地にあるが、伝統工芸指定は大館のみである。秋田杉だからである。しかし、天然秋田杉の供給停止が決まり、今後は100年以上の人工造林に替わることになった。木目の美しさに違いがあるが、秋田にはいい材料といい技術がある。新たな機能(用途)の開発に若手作家も活躍している。デザインの分野から課題解決に寄与したい。



天然秋田杉と人工造林材の違いは…

『上小阿仁って素晴らしい～上小阿仁のPR最前線』

“長野県出身で山育ちです”と、自己紹介された秋田県立大学生物資源科学部宮入隆助教は、五城目町におけるラズベリーの栽培に関わり、生産振興を支援しておられます。

きっかけは、大学で開催した「キッチンゴ研修会」に参加した町の方が、“これはいけるかも!”と町の新規振興作物として提案したこと。思いがけない出会いであった。現在は「五城目町キッチンゴ研究会」が設立され、お酒や和洋菓子の新商品が開発されている。よい商品を作って単品で売るだけでなく、大きな視野で連携し、特産品を町村の総体として見せていくPRに寄与したい。

